鷹日神社の石灯籠と松江層の安山岩溶岩

新宮敦弘 *

概要

島根県松江市東津田町にある交通安全や桜の名所で知られる鷹日神社であるが, 以前から気になっている古い石灯籠があるので観察し, 石材という観点からまとめてみた.

1　鷹日神社の概要

鷹日神社の山門の掲示に次のように記されている.

長息の神、商売繁昌の神様

延喜式内 鷹日神社の御案内

御同座　鷹日道祖神 交通安全守護神様

御祭神　高御産霊神、大日霊女貴神

素盞嗚神、宇迦之魂神

道祖神 八衢ノ神、岐戸ノ神

由緒

延喜式に鷹日神社、出雲風土記に多加比社とあり、古文書に天智天皇の七年（白雉七年、西六六一年）九月十一日、天照大神の御神霊をお祀りになった。天智天皇七年夏天下日照り続きで万民困り果てし時、天皇は諸国をご視察になった或る夜夢に白鷹が良く稔った稲穂を口にくわえて天皇の前に飛び来った。天皇は、この日照り続きにこんな稔った稲穂がと喜び白鷹に「何処から来たか」と問えば「出雲の国意宇の郡より来た」と答えた。天皇は夢より覚めた時、外には雨が降りこの雨のため万民はすくわれた。天皇は大変喜ばれ、これは天照大神のお助けと、早速出雲に勅使を出し、この白鷹をお探しになった。当社高御産霊神の使神である白鷹がこの森にいたので新しく社殿を造り天照大神（大日霊女貴神）をお祀りになった。高御産霊神は天照大神の親神さまです。

2　石灯籠の概要

図 1 に石灯籠のつくりを示す. 写真は論文末尾にまとめた.

石灯籠は鳥居の内側すぐの左右にある (写真 1,2,3). 片方の石灯籠に年号が刻まれており,弘化五戊申三月 とある (写真 2). 弘化は同年 2 月 28 日 (グレゴリオ暦 1848 年 4 月 1 日) 嘉永に改元されているので実質的に嘉永年間に建立されたのかも知れないが, いずれにしても 170 年ほど経過している.

鳥居をくぐって左側の石灯籠 1(写真 1,2) の石材について観察すると, 最上段の「玉(宝珠)」は忌部安山岩よりできている. これは松江城の石垣で使われている忌部石と同種のもので,大庭～ 忌部地域に産する大森層の安山岩の「核石」である.

「笠」と「受鉢」の部分は松江層の安山岩 (地元津田の石材) で作られている. この地域の松江層は地質調査所の 5 万分の 1 地質図では玄武岩とされているが, 坪田ほか (2007) は玄武岩質安山岩とした. 笠の石材の特徴は構成鉱物に角閃石を多く含んでおり, 類似した岩石は後で述べる新露頭でも観察できる. 本論では坪田に倣い安山岩と記載する.

「柱」は長黒石(忌部安山岩の柱状節理) で岩石としては「玉」の部分と同種の岩石. この岩石の柱状節理は神魂神社などでも使われている.

鳥居をくぐって右側に位置する石灯籠 2(写真 3) は「玉」が花崗岩 (八雲, 忌部, 玉湯などに産する 鶯 花崗岩) よりなる.「笠」と「受鉢」,「柱」は石灯籠 1 の「笠」と同種の安山岩だが,「火袋」の部分は来待石(大森層の凝灰質砂岩 · 礫岩) で作られている.

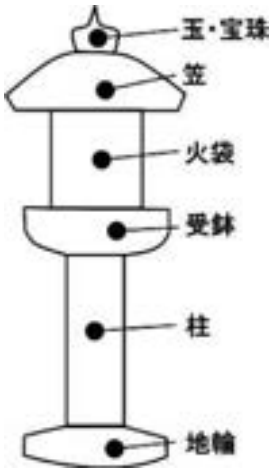

図 1 : 石灯籠のつくり

* 株式会社　藤井基礎設計事務所　基礎設計室

3　鷹日神社その他の石材

鷹日神社の石灯籠以外での使用石材をまとめると次のようになる.

本殿台座　島石(大根島の石材).

本殿囲い　大東花崗閃緑岩.

石碑　明治 15 年 5 月建立. 台座：松江層安山岩. 碑：長黒石.

鷹の石碑　大正 9 年 11 月建立. 囲い：大東花崗閃緑岩. 台座：島石. 碑：大東花崗閃緑岩.

さざれ石　平成 19 年建立. 台座：長黒石.

唐獅子　来待石. 花崗閃緑岩 (平成 6 年, 白御影, 瀬戸内周辺の石材?). 台座：粗粒花崗閃緑岩.

手水舎　昭和 46 年. 閃緑岩 (大芦の石材に似る).

鳥居　平成 6 年, 平成 19 年. 花崗閃緑岩. 白御影など.

石段　平成 19 年 11 月. 花崗閃緑岩.

石垣　凝灰質礫岩 (森山石?).

来待石のものは風化がすすみ, 花崗閃緑岩に置き換えられているものと思われる. 花崗閃緑岩は大東花崗閃緑岩のほかにもう少し白色で暗色包有物の少ない石材 (いわゆる白御影) とかなり粗粒な花崗閃緑岩の少なくとも 3 種類以上ある. 明治期のものは近隣の石材で作られている.

4　会社近くの新露頭

藤井基礎設計事務所の近くに, 松江層安山岩の新露頭 (写真 4,5) があり, この溶岩と鷹日神社で使用されている石材との間で外観上特徴が似ている. この溶岩, 露頭では多孔質な部分もある灰色 ～ 褐灰色の岩石で, 風化しているようにみえるが比較的新鮮である. 特徴は肉眼でも観察できる大きさの角閃石を含んでいることである (写真 6). 採集した試料で薄片をつくり偏光顕微鏡観察を行った.

鏡下では斑晶として単斜輝石 (0.1～0.5mm), 角閃石 (0.1～1.2mm) を含み, わずかに斜方輝石 (0.3mm) を含む, また気泡付近には沸石, セリサイトを伴う含輝石角閃石安山岩 (写真 7,8) であった. 石基は斜長石を主体とし, ピロタキシティック組織がみられる.

松江層の玄武岩類の活動は坪田ほか (2007) によれば下位より茶臼山岩体, 鼻曲岩体, 上乃木岩体, 津田岩体, 東光台岩体, 楽山岩体の 6 つの溶岩があり, 本地は津田岩体の範囲である. 同論文では津田岩体以降を安山岩溶岩としているが, 本調査地を含む津田岩体を構成する岩石は, 主な斑晶は斜長石で, 単斜輝石が少量認められる程度で単斜輝石玄武岩質安山岩と記載されている. 東光台岩体を構成する岩石は, 主な斑晶として, 単斜輝石, 斜長石, 角閃石が認められる含輝石角閃石安山岩と記載されている. 鉱物の組み合わせからすれば, 調査地の岩石は東光台岩体に近い組成となっている. この東光台の石材は松江城の石垣で使用されているいわゆる「矢田石」である.

図 2：新露頭の位置 (地理院地図使用)
★が新露頭.

5　まとめ

松江城の石垣の石材も初期に使われていなかった美保関の森山石や大根島の島石が時代とともに使用されるようになるが, 石材の利用は時代とともに変遷するのが常であり, 石材を知ることでその地域を取り巻く石の文化圏がみえてくる. 特に神社等で使用されている石材には建立された年号の入っているもの, 由来の明らかなものがあるなど時代を探るのに適している.

鷹日神社の使用石材も時代とともに変遷している. 江戸期までは地元に産する松江層安山岩や大庭 (忌部), 大根島の石材が使用され, 明治期以降は大東花崗閃緑岩も使用され, 近年は他地域の花崗閃緑岩も使用されている. また, 細かい加工の必要なものは来待石が使用されている. この結果, 時代とともに石の文化圏が拡大する様子がうかがえとても興味深い結果となった.

文献

1) 鹿野和彦・山内靖喜・高安克己・松浦浩久・豊　遥秋 (1994),5 万分の 1 地質図幅「松江」, 地質調査所

2) 坪田智行・秋好浩行・松本一郎 (2007), 松江層玄武岩類の記載岩石学的研究, 島根大学教育学部紀要 (自然科学) 第 41 巻 p171-177

写真 1：鷹日神社の石灯籠 1

写真 2：石灯籠 1 の年号

写真 3：鷹日神社の石灯籠 2

写真 4：藤井基礎設計事務所近くの新露頭

写真 5：新露頭の近接写真

アルカリ岩は多少風化すると灰色になる.

ハンマーの長さは約 30cm.

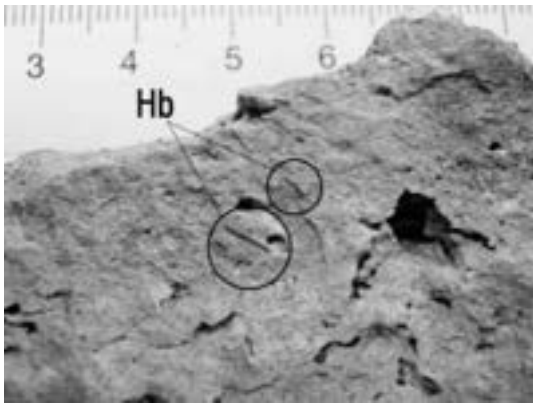

写真 6：新露頭の玄武岩質安山岩の近接写真

長柱状の角閃石 (Hb) や気泡がみられる.

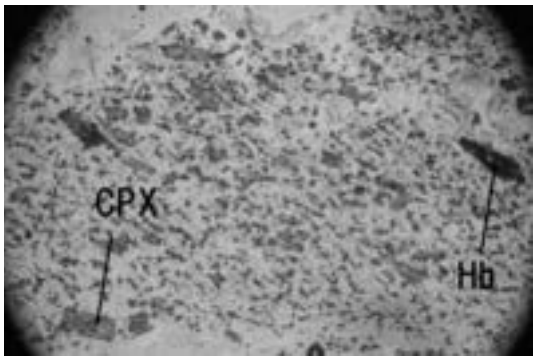

写真 7：新露頭の玄武岩質安山岩の偏光顕微鏡写真

オープンニコル, 視野幅 1.6mm

CPX：単斜輝石 Hb：角閃石.

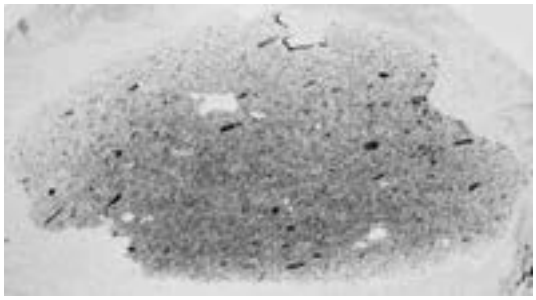

写真 8：新露頭の玄武岩質安山岩の薄片写真

オープンニコル, 黒色の鉱物は角閃石.

写真の幅は約 3cm.

薄片写真はフィルムスキャナーにより撮影した.